**＝＝＝**

属性（選択肢または数値入力）

性別：男性

年齢層：50代

本人の感染の有無：なし

親しい人の感染の有無：なし

同居者：妻、娘（大学生）

居住都道府県： 埼玉県

住居の形態（戸建て、集合住宅（庭またはバルコニー・ベランダあり））： 集合住宅、ベランダあり

職業：会社員

収入の変化（自分、世帯）：下がった

支出の変化：変わらない

2020年1月の週あたり出勤日数、労働時間（職場と在宅それぞれ）：

5日 職場50時間；自宅0時間

2020年5月の週あたり出勤日数、労働時間（職場と在宅それぞれ）：

3日 職場30時間；自宅20時間

生活満足度の変化（大きく下がったから大きくあがった）まで：下がった

自由記述：感染拡大に伴って、自分の仕事や生活に関連して大きく変化したことを、自由に挙げてください。

緊急事態宣言下でも通勤していたので仕事はあまり変わらない。ただ収入は減った。家族それぞれの事情でほぼ顔を合わせなくなった。

＝＝＝

【自分自身について】

1. 1月の働き方
2. 緊急事態宣言中の働き方

インタビュアー

働き方についてお尋ねします。まずは今年１月はどのような働き方をしていたのかお話いただけますか？

Aさん

1月はいつも通りの働き方をしていました。思い起こしてみれば、中国で感染症が、という話題にちらっと触れただけで、特に何かあると思ってなかったので。毎年のようにインフルエンザにかかるので、そちらの方が心配で。週5日と、あとたまにお客様の都合で土曜日も仕事でオフィスに出るのが基本です。オフィスは渋谷で通勤は一時間くらい。定時は9時から6時で、でも帰宅は8時か9時くらいですね。夜自宅から対応することもあります。月に数回在宅勤務にすることもあるかな、というのが1月の働き方でした。

インタビュアー

４月７日からの緊急事態宣言が解除されるまでの間はどのような働き方でしたか？

Aさん

緊急事態宣言が出てからも通勤していました。当番制で週の半分はオフィスに行くような感じでした。問合せがメールよりも電話で入ることが多くて、誰かがオフィスにいないと対応できないので。週半分通勤していたので、感覚的にはあまり違いを感じなかったというか。お客様の方も新年度で、コロナ対策で、と色々あるようで、せっかく出社しても電話の件数は少なかったので、少し工夫すれば出社しなくて済んだんじゃないかなと思ったりしました。いつもよりすいてるとは言っても長く電車に乗って繁華街近くのオフィスに行くのはこわかったですね。でも、自宅なら良いかというとそうでもなくて、自宅で仕事をするような環境を作っていないので、ダイニングテーブルでノートPCの小さい画面で作業することになって、持病の腰痛が悪化した気がします。

変わった点では、顧客訪問がなくなったことでしょうか。営業職なので、顧客や仕入れ先などへの訪問が多かったのですが、緊急事態宣言中は実際に足を運ぶことはしませんでした。主に電話で、画面共有が必要な場合は、最初はSkypeやGoogle Hangoutを使っていましたが、途中からZOOMになりました。大変だったのは集客を始めていた有料セミナーを急遽中止して返金などの手続きが発生したことですね。手間は増える、収入は減る、という状態で、不安でした。

【同居者について】（いる場合）

3.同居者（複数いる場合はそれぞれ）の働き方、通学などの変化はどのようなものでしたか。

インタビュアー

同居している方はいらっしゃいますか？いらっしゃる場合、同居者の働き方、通学などの変化はどのようなものでしたか？

Aさん

妻と大学生の娘と同居しています。妻は介護施設の管理職なので、ほとんど家に帰れない状態でした。今は少しましですが。

娘は新年度からの授業はオンラインになって。前期はずっとこのままらしいです。オンラインと言ってもリアルタイムの講義ではなくて録画されたものを自分で見て課題提出するので、アクセスが集中するのか昼間はつながらなかったり再生が止まったりすると言って深夜に見るんです。それでほぼ昼夜逆転の生活になっています。

生活の変化について

4.自分と同居者の生活の変化はどのようなものでしたか。睡眠、家事、趣味、運動、自由時間、家族関係など思いつく側面についてお答えください。

インタビュアー

ご自分とご家族の生活の変化はどのようなものでしたか？

Aさん

ずっと家族と一緒で逃げ場がなくて辛い、みたいな話をテレビで見たりしましたけど、うちでは逆に家族の顔を見なくなりましたね。先ほど言ったように妻は家に帰れない、娘は昼夜逆転で授業を受けている、私は日中会社か自宅で仕事でしたから。元々生活時間が合わないことも多かったのですが、それ以上に、それぞればらばらに生活している感じです。

平日は同僚や友達と飲みに行ったり、休日もたまには出かけたりしていたのほぼなくなっています。緊急事態宣言は解除されても、妻の仕事を考えるとまだまだ気軽に外出もできないので。出かけるのは犬の散歩くらいでしょうか。ZOOM飲み会とか話題になってますけど、なんというか、そこまでしたくないような気もして、職場以外で人と話すことはほぼなですね。

つらかったこと

5.緊急事態宣言およびそれに先立つ、外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でつらかったことをお答えください。

インタビュアー

緊急事態宣言や外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でつらかったことをお答えください。

Aさん

いつまで続くかわからないのがつらかった、というか、つらいです。会社の経営的にも厳しい状況が続いてますし。収入も減っています。基本給が出ているだけでもありがたいのかもしれませんが、毎月あげた売上に連動するインセンティブ部分が大きいので。一時的な減収であれば耐えられますが、これが半年、一年と長引くとこわいですね。まだローンも残っていますし。

よかったこと

6.緊急事態宣言およびそれに先立つ、外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活でよかったことをお答えください。

インタビュアー

緊急事態宣言や外出自粛や休校措置などの感染防止対策の開始後の生活で良かったことをお答えください。

Aさん

ありません。良かったことがある人なんているんでしょうか。通勤しなくてよくなったとか？私の場合は、在宅勤務が認められるようになったと言っても、緊急事態宣言下でも出社してたわけですし。結局業務上の改革はしていないので。

7.全体として、緊急事態宣言やそれ以前の感染拡大防止のための社会の変化は自分にどのような影響を及ぼしましたか。

インタビュアー

全体として、緊急事態宣言やそれ以前の感染拡大防止のための社会の変化は自分にどのような影響を及ぼしましたか。

Aさん

不安が増しました。特に景気が良かったわけではなくても、ある程度の下振れを考慮してもなんとかあと15年くらい頑張れば・・と思っていたのが、へたしたらすぐにでも経済的に苦しくなるかも、という不安が一番です。家のローンや娘の学費もありますし。地元にいる自分の親も、何かあれば駆けつければいい、というわけにはいかないですし。少しでも良い方法を、と思っても、先行きが見えないので、結局何もできないですし。不安だな、どうしようかな、と考えても仕方ないのに考えてしまう、みたいな感じです。